

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービスSORA時津			
○保護者評価実施期間	令和8年2月16日		～	令和8年2月23日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数)	5名
○従業者評価実施期間	令和8年3月3日		～	令和8年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的なアセスメントに基づく個別支援計画の作成と高い満足度	KIDSや遠城寺式等の標準化ツールを用いて客観的に分析し、保護者面談でニーズを反映した支援計画を作成・説明して高い評価（満足度100%）を得ている。	理学療法士・言語聴覚士等の多職種の専門性を活かし、平日・休日・長期休暇ごとの課題設定やモニタリングの精度をさらに高めていく。
2	日々の職員間連携と保護者・学校との密な情報共有	毎日の朝礼・終礼での申し送りや記録の徹底に加え、送迎時の対話や連絡ツール、学校との情報共有を行い、子どもの状況について共通理解を深めている。	日常の細やかな様子共有に加え、家庭での過ごし方や自立に向けた個別助言・相談対応の質をより高めていく。
3	子どもが安心感・楽しみを持って過ごせる個別・集団活動の実践	スタッフ間で活動の振り返りを日々行いプログラムの固定化を防ぎ、個別の状況に配慮した関わりにより全員が通所を楽しみ・安心できている。	年齢や就学状況の変化に合わせて個別活動と集団活動の組み合わせを工夫し、より主体的に取り組めるプログラム展開を推進する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の交流機会および家族支援の場づくり	日常の個別相談や助言は行えているものの、保護者会の開催や保護者同士・きょうだい児向けの交流機会を十分に設定できていなかったため。	ご家庭の負担に配慮しつつ、座談会や保護者交流会、家庭での対応に役立つ情報提供やペアレント・トレーニング等の機会を段階的に計画・実施する。
2	放課後児童クラブ・地域との交流や外部連携の拡充	地域の通所支援事業所連絡会等には参加しているが、近隣の児童館・学童クラブや地域住民と直接交流する活動機会が不足していたため。	地域のイベント参加や近隣施設との交流機会の検討を進めるとともに、将来の進路・移行支援を見据えた関係機関との連携体制を早期から整える。
3	非常時対応・防災訓練等の保護者への周知・情報発信	事業所内では定期的な避難訓練や各種マニュアルの整備を行っているが、保護者評価において「わからない」との回答が見られ、実施状況の発信が十分でなかったため。	避難訓練の実施状況や各種安全マニュアルの内容を、ホームページや連絡ツールを通じて写真等も交えて定期的に発信し、保護者への可視化と周知を図る。